



PRESS RELEASE

令和 7 年 4 月 22 日

**勉強を頑張る学生に“プチ贅沢”のサプライズプレゼント
～学習の進捗を科学的に把握できる eラーニングで、
企業が学生を直接応援する機会創出～**

◆発表のポイント

- ・岡山大学はビッグデータを基盤とした eラーニングに一定基準以上取り組んだ学生に対し、岡山大学生協で利用できるポイントを付与するサービスを提供しました。
- ・今年度、同様の方法により企業等と大学がコラボし、学生の学習意欲を向上させる新たな取り組みを始める予定です。

岡山大学 AI・数理データサイエンスセンターデータサービス推進部門と教育学研究科附属実践データサイエンスセンター教育・心理支援サービス部門は、企業等の協力を得て、学生の学習意欲向上を引き起こす新たな教育支援を始めます。今回は岡山大学生協ご協力の下、ビッグデータを基盤とする eラーニング（マイクロステップ・スタディ：以下 MSS）の学習に一定基準以上取り組んだ学生に対し、岡山大学生協で利用できるポイントを付与しました。ポイントは生協施設にて自由に使用できますので、普段は手がでないデザートを食べたり、読みたかった小説本を購入したりと、学生にいつもとは違う、プチ贅沢を味わうきっかけを提供し、勉強をさらに頑張ってもらいたいと考えています。

今回の取り組みを発展させることで、企業と一緒に学生の学力向上や意欲向上をもたらす、新たな教育支援を創出していこうと考えています。

なお、一般的な eラーニングは、学習の継続が困難であることが以前から課題とされており、eラーニングの効果に対する十分な科学的根拠が報告されていません。一方、MSS では単純に取り組むことが、英検や GTEC といった英語力試験の成績を上げることを支持する結果がトップジャーナルに掲載され始めたほか、学生の学習意欲を高める効果も明らかになっています（※1）。さらに、本施策では、学習に取り組んだ学生に、直接的にメリットとなる生協のポイントを付与することで、学生の学習意欲をさらに高めることを目指しています。

また、本施策は、学生を応援したい企業にとって、学生に直接メリットを届けるための新たな仕組みとなることが期待されます。企業は、本施策に協賛することで、学生の学習を応援しつつ同時に、自社の認知度向上やイメージアップにつなげることができます。岡山大学は、今後も本施策を不定期的に継続し、学生の学習意欲向上だけでなく、産学連携による学生支援の促進にも努めていきます。



PRESS RELEASE

◆研究者からのひとこと

「学生に我が社を知ってほしい」「頑張っている学生を応援したい」
「でもどの学生を応援すれば良いのかわからない…」、そんな企業側のニーズと学生をマッチングする新たな取り組みです。
企業様からの問い合わせもお待ちしています。



寺澤孝文 教授

■発表内容

岡山大学 AI・数理データサイエンスセンターデータサービス推進部門と教育学研究科附属実践データサイエンスセンター教育・心理サービス部門は、学生の学力・学習意欲向上と、企業による学生支援の新たな形を創出するこれまでにない支援を開始しました。学習の進捗を科学的に把握できる、高精度教育ビッグデータを基盤としたeラーニング(マイクロステップ・スタディ:以下MSS)の学習に一定基準以上取り組んだ学生に対し、岡山大学生協で使用できるポイントを付与しました。MSSのデータのうち「学習量のデータ」を活用し、一定基準以上の学習に取り組んだ学生を抽出しました。1回目となる今回の施策では、昨年中の学習をもとに、本年3月に学生への通知と、ポイントの付与を実施しました。

学生には事前の告知はなく、サプライズプレゼントとしてポイントが付与されました。事前に告知をしなかった理由は、動機づけ(やる気)に関する研究で、勉強などの行動を引き起こそうと事前に報酬を予告して与えた場合に、その条件となった行動を抑制してしまう現象(アンダーマイニング効果といいます)が指摘されており、それを避けるためです。

やる気を上げるポイントは報酬の有無といった単純なものではなく、報酬の与え方にあります。勉強をしない子どもに「今度のテストでいい点を取ったらUSJに連れて行ってあげる」と言って連れていくと、その後の子どもの自分から勉強しようという意欲は落ちてしまいます。しかし、子どもが学習を頑張った後に、USJに連れて行ってあげることは悪いことではないのです。ポイントは、報酬を与えるか否かではなく、保護者や教師が子どもを変えようとする意識を子どもに伝えないことです。教師や保護者、上司もそうですが、何らかの指導をして子どもの学力を上げる、良い行動ができるよう変化させたいと考えていますが、それは子どもが自分から行動を起こすことを抑制してしまいます。指導して子どもを変化させると考えること自体が、子どもの意欲を落とすことにつながるわけです。もしそうなら教師は何もできないと考えがちですが、重要なポイントは、子どもが変化した後に指導を入れることです。指導をして子どもを変化させる(指導→子どもの変化)のではなく、子どもが変化した後に褒めたり報酬を与えたりして指導する(子どもの変化→指導)、この順序が重要です。言い換えると、指導者は、何より学習者の変化に気づくことが重要だということです。

今回の支援は、学生の学習状況を高精度ビッグデータによって正確に把握し、その変化に対応して、学生に報酬を与えることを実現しています。年間を通じて高精度なビッグデータを集約し、学習者の学習状況を詳細に把握できるようになったからこそ、新たな支援が可能になったわけです。ビッグデータから導き出される学習情報は想像を超えるほど詳細です。今後さまざまな情報を活用して、教育支援を高度化していきます。



PRESS RELEASE

【生協ポイント付与の具体的な流れ】

抽出された学生には、学内で物販や食堂の施設を構える、岡山大学生協で使用できるポイントが付与されました。学生は、このポイントを利用して食事ができるほか、書籍や文具、食品などを購入することができます。付与されたポイントの用途は自由ですが、今回付与したポイントは、生協の運営する食堂でカツカレー1食分の金額（539 円）を一つの単位として設定しました。これは、一部の学生からのヒアリングで、「（昼食の予算が）500 円だとちょっとさみしい」、「もう 100 円程度あれば豪華なランチが食べられるのに」といった声が上がったことを受けてのことです。普段は普通のカレーを頼むところを、ちょっと贅沢にカツカレーを楽しめる、という場面を想定して決定しました。やや、男子学生寄りの視点だとのこと意見もあるかもしれませんが、先述の通り、ポイントは生協施設にて自由に使用できますので、普段は手が出ないデザートを食べたり、読みたかった小説本を手に入れたり、学生にいつもとは違う、プチ贅沢を味わうきっかけを提供し、勉強をさらに頑張ってもらいたいと考えています。



実施報告

付与対象者 学部 1、2 年生

付与対象者数 92 人

付与条件 2024 年 10 月 1 日～12 月 31 日までの期間に一定基準以上の学習を行っていること

付与総額ポイント 約 5 万円分

※学年・学部ごとの人数、詳細な取り組みに関する情報は非公開とします。

＜本施策の背景にある研究＞

上述したような、やる気（動機づけ）の研究の他、本施策の実現には ICT の技術革新があります。本施策の目的は、学生の学習意欲向上と、企業による学生支援の新たな形を創出することです。この施策が実現できたのは、やればやるほど効果があり、科学的にきちんと効果が証明された e ラーニングが開発され、そのデータから勉強を頑張っている学生を学習履歴のデータから抽出できるようになったためです。

一般的な e ラーニングでは継続が課題となり、また、単純に取り組んだからといって、成績が必ず上昇するとは限りません。勉強は「やればできる」と言葉では聞くものの、それを、学術的なデータで示した例が一つもないのが、これまででした。一方 MSS は、単純に取り組むことが英検や GTEC といった英語力試験の成績を上げることを支持する結果が、学術の世界で認められている e ラーニングであり、学生の学習意欲を高める効果があることも最新の成果として明らかになっています（※1）。

＜社会的な意義＞

この取り組みが、地元の経済を活性化させるかもしれません。今後、学生の学習を支援したい企



PRESS RELEASE

業・団体等のスポンサーを、一定の基準を設けた上で学生とともに開拓し、その企業等からの支援を今回のような仕組みを用いて、学生に直接届けることが可能です。

スポンサーになってくださる企業等は、自社の商品やサービスを提供することでも学生を応援できます。また、学生に直接提供できるサービスや商品が用意できないB to B企業でも、今回のように岡山大学生協が発行するポイントを付与することで、学生との接点を持つことができます。

この取り組みによって、学生はより多様な形で支援を受けられ、企業は学生の認知度アップと、社会貢献活動を推進できます。また、大学は教育の質を高め、岡山大学生協は利用者のアップが見込めるなど、関わる全ての人々がメリットを得られることを目指しています。岡山大学は、このような連携を通じて、学生の成長を支援し、社会に貢献できる人材を育成していきます。

■補足・用語説明

(※1) 参考：2024年5月23日プレスリリース「5分間見流すだけの英単語学習が英検®スコアを向上させる世界初の成果～潜在記憶理論を基盤としたeラーニングの効果検証～」

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1232.html

<お問い合わせ>

岡山大学 学術研究院教育学域

教授 寺澤孝文

(研究室電話番号) 086-251-7714 (寺澤)

(センター電話番号) 086-251-7433 (田邊)



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。